

令和元年度 市議会議会報告会における設定テーマに係る意見等(産業建設常任委員会)

【令和2年3月19日】

所管	No.	課題・テーマ	意見等	市当局からの回答(現状)
産建	1	体験型観光	大船渡には観るところや食べるところはあるが、遊ぶところ・体験するところがないことが課題だ。ハングライダーや漁業体験などの組み立てが大事で、大船渡にしかないもの、できないものを作り発信する企画力が重要である。	<p>現在、市内では19の個人・団体が体験観光を提供しています。中でも、震災後、復活した碁石海岸穴通船は、大船渡の観光の目玉として多くのお客様から好評をいただいています。</p> <p>また、碁石海岸レストハウスの「浜の仕事体験室」では、ワカメの芯抜き体験を始め、16メニューが用意されているほか、市内の菓子工場や酒造メーカーにおいても、製品をつくる体験や工場見学などの取組を進めています。</p> <p>しかし、これらの取組が広く伝わっていないことや、対応する人材の確保などの課題も多く、十分に活用が図れていないのが実態となっています。</p> <p>今後におきましても、各施設や関係団体などと連携して、観光コースにある体験メニューの充実を図るとともに、当市の体験観光の魅力を国内外に広く情報発信する取組を強化していきます。</p>
産建	2	体験型観光	日本遺産として、今出山金山跡地の追加申請を目指すべきだ。	<p>今出山金山跡については、歴史研究者などとともに文献調査や現地踏査により情報収集を行いました。日本遺産との連携及び活用推進に結び付く十分な知見を得ることができなかったことから、申請は見送っています。</p>
産建	3	大きくて総合的な物販施設	大船渡(の中心市街地)には土産・海産物を買える大きくて総合的な物販施設がない。現に、観光客の呼び込みやリピーター獲得に支障が出ている。	<p>中心市街地である大船渡駅周辺地区は、震災により壊滅的な被害を受けましたが、その後の復興事業により、商業・観光の拠点として、周遊し、楽しんでいただくことをコンセプトに整備されました。</p> <p>当該エリアのマネジメントを担う株式会社キャッセン大船渡では、エリアガイドマップなどを作成し、構成施設や関係団体などと連携して、来訪するお客様にお渡しするなど、ほしい物を見つけやすくする取組を進めています。</p> <p>また、総合的な物販施設の整備については、これまでも同様のご提言が多く寄せられていることから、関係団体などと議論を継続していきます。</p>

令和元年度 市議会議会報告会における設定テーマに係る意見等(産業建設常任委員会)

【令和2年3月19日】

所管	No.	課題・テーマ	意見等	市当局からの回答(現状)
産建	4	広域で連携した観光客の呼び込み	大船渡と陸前高田、釜石で連携し広域で観光客を呼ぶ方策を考えるべきだ。例えば、祭りの時期の3連休では、今日は高田、明日は大船渡、次は釜石など、広域で日程を調整する。	<p>当市では、祭りなどのイベントを観光誘客や宿泊客の増加につなげられるよう、各種団体などの協力をいただいて日程を把握し、市のホームページにイベントカレンダーとして掲載するなど、イベントスケジュールの最適化を図る取組を進めています。</p> <p>これまで、気仙2市1町と釜石市では、三陸ジオパークや三陸復興国立公園の保全と活用、五葉山の自然保護など、広域観光の取組を通して、地域の観光の推進に努めています。</p> <p>近年、三陸沿岸道路の延伸などにより、移動時間が短縮されたことなど、広域連携の環境が整ってきていることから、その利便性を活かしたツアー造成や営業活動などについて取組を強化するとともに、イベントスケジュールについても広域で共有し、効果的な観光誘客につなげていきたいと考えています。</p>
産建	5	広域で連携した観光客の呼び込み	気仙にはいろいろな観光の場があるので、大船渡市だけではなく2市1町(気仙)で連携して、点を線にして観光地をつないで一体感を持たせれば観光客も増えるのではないかと。	<p>現在、気仙2市1町では、行政と民間観光事業者が連携して、合同での旅行代理店訪問など各種PRを実施しているほか、おもてなし研修会などを開催し、気仙地域全体での観光客の受入態勢の向上に努めています。</p> <p>令和元年度には、2市1町が連携して、それぞれの観光素材をつなぐモデルコース策定を行っており、今後、旅行エージェントへの売込みなど、プロモーション活動に活用していくこととしています。</p>
産建	6	道路、駐車場などの基盤整備	大型バスで交差点を左折するとき、大船渡の道路は狭すぎて停止している車とギリギリの所が多い。観光バス泣かせである。	<p>地域や関係機関からの要望に応じ、交通の状況、必要性、優先度などを勘案した上で、道路管理者との協議あるいは事業の実施に向けた調整を図っていきます。</p>
産建	7	道路、駐車場などの基盤整備	シルバー層を対象に設備改良が必要だ。例えば、穴通し磯はお年寄りでも行きやすいよう歩道整備が必要で、加えて、トイレの改修についても求めたい。	<p>平成28年に「碁石海岸穴通磯への通路のバリアフリー化」について国立公園の管理者である国に要望しましたが、国からは碁石海岸が国の名勝に指定されていることや、三陸復興国立公園の第1種特別区域となっていることなどを理由に、「バリアフリー化などの大規模改修は望ましくない」との指摘を受けています。</p> <p>このことから、施設整備を担当する岩手県に対し、比較的景観に影響の少ない階段の勾配の見直しや、手すりの設置、階段途中の休憩地の確保などについて、県の自然環境整備計画に位置付けるよう強く要望しており、令和2年度からの計画の見直しに反映する方向性が示されています。</p> <p>また、トイレの改修については、今後、清潔な維持管理に努めながら、改修の時期及び規模などについて検討を進めていきます。</p>

令和元年度 市議会議会報告会における設定テーマに係る意見等(産業建設常任委員会)

【令和2年3月19日】

所管	No.	課題・テーマ	意見等	市当局からの回答(現状)
産建	8	道路、駐車場などの基盤整備	大型バスをとめる駐車場が(市中心部などに)少ない。	中心市街地にツアーなどで大型バスが乗り入れる場合は、旅行会社と受け入れる店舗や関係団体が連携して駐車場を確保していますが、大型バスの駐車場が少ないため、複数の大型バスが同時に乗り入れる場合には駐車場の確保に苦慮している実態があります。今後、商業施設や観光施設などの関係団体と連携して、観光バスに対応する整備を含めた駐車場の確保について検討を進めていきます。
産建	9	客船乗客用の市内をめぐる観光コース	大船渡港に客船が入るが、平泉がほとんどで、遠野や釜石がたまにある。大船渡も半日で回るコースつくらねば。	客船入港時のオプションツアーは、乗船客のニーズが多い世界遺産平泉を中心に設定されていますが、小石浜での漁師とのふれあい体験や碁石海岸を含む半日コース、三陸鉄道を活用したコースなど、市内に滞在するコース設定もされており、特に小石浜コースは、リピーターの乗船客に大変人気を博しています。昨年開館した陸前高田市の津波伝承施設は、心に残る旅の思い出になる施設として、クルーズ会社やツアーを造成する旅行会社では大きな関心を持っており、ここを拠点として、当市や住田町を周遊するオプションツアーの造成にも大きな期待を寄せています。また、船内に留まっている乗船客には、市内観光を楽しんでもらえるような観光コンテンツなどの情報発信にも努めるなど、今後も、クルーズの乗船客が、当地域を十分満喫していただけるよう取組を進めていきます。
産建	10	ツバキのPR	大船渡にはツバキやツツジなど自然に恵まれているのに、PRが不足している。椿の里とアピールしているのであれば、もっとどんどんPRしていくべきである。やっていることが中途半端である。	椿の里づくりについては、行動指針に基づき、椿利活用推進事業などを実施していますが、今後、令和3年度に開催を予定している「全国椿サミット大船渡大会」の開催に向け、「世界の椿館・碁石」などを中心としたさらなるPRに努めていきます。

令和元年度 市議会議会報告会における設定テーマに係る意見等(産業建設常任委員会)

【令和2年3月19日】

所管	No.	課題・テーマ	意見等	市当局からの回答(現状)
産建	11	観光情報のPR	情報誌への掲載やHPでの観光情報発信が重要で、大船渡に来てみたいと思わせるよう、改善が必要である。	<p>令和元年6月に、市のホームページのリニューアルに合わせて、市内の観光スポットや観光モデルコースの紹介などの充実を図っており、観光物産協会のホームページや「大船渡ポータル」などのウェブサイト、岩手県発行の「いわてダ・ヴィンチ」や岩手朝日会発行の「レッツいわて」などの情報誌などにおいても、当市の魅力や観光情報を発信して、観光客の誘客や地域のイメージの向上に努めています。</p> <p>また、市ではインバウンドの取組を強化しており、受入態勢の強化やツアー造成に加え、国際交流員によるSNSでの情報発信や観光パンフレットの多言語化などにより、国内外の外国人観光客への情報発信にも積極的に取り組んでいます。</p> <p>今後は、市や関係機関、民間事業者などが当市の情報を発信するホームページなどについて、閲覧者目線での整理を行い、それぞれの特色を生かしながら、興味を持っていただけるような情報を継続的に発信できるよう、宿泊事業者や飲食店などのウェブサイトとの連動性を高め、即時性の高い情報を、どのサイトからでもアクセス可能な状況を創出する取組を進めていきたいと考えています。</p>
産業建設常任委員会の所見				
<p>11月20日の議会報告会では、令和元年10月に当委員会で提言した事項のうち「観光客を呼び込む魅力の向上」をテーマに参加者と意見交換を実施した。頂いた意見を確認したところ、体験型観光メニューや物販施設整備による新たな魅力の創出、これらを既存資源と組み合わせた観光ルート化の推進、近隣自治体と連携したPR、駐車場やトイレなどの基盤整備に関する内容が多くを占めたところです。</p> <p>いずれの意見についても、市民が見た率直な現状や要望を反映したものであり、当市を訪れた旅行者が抱く印象とも相当程度一致すると考えられます。</p> <p>市では、今般策定する「第2期大船渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や、今後作成・改定が見込まれる「大船渡・住田定住自立圏共生ビジョン」、「大船渡市観光ビジョン」において、新規事業も含め関連する取組を進める考えのようですが、これら施策の推進に当っては、以下2点が重要であることを委員会として指摘します。観光客の呼び込みは市内の宿泊業、旅行業、飲食業にとどまらず多業種への影響も大きいことから、「第2期大船渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」ほか、関連する諸計画の具現化が極めて重要であり、各種事業の着実な実施を求めるところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験型観光のメニューづくりや観光ルートの企画立案に当たっては、旅行関連事業者などの協力が事業の成否に大きく影響することから、市が事業目的や将来へのビジョンを示すことに加え、関係者間の合意形成と連絡調整を図る仕組みづくり。 ・中心市街地への新たな物販施設整備にあたっては課題も多いが、代替策を講じることで改善を図れる部分も少なからずあると考えられることから、物販施設整備を望む声の背景を把握した上での趣旨を踏まえた施策展開。 				